

台湾経済の縁の下の力持ち？

知っておきたい台湾のドラッグストア/コスメ業界事情

歐元韻

台湾でも今やドラッグストアやコスメショップは人々の日常生活には欠かせぬ存在です。2012 年前後より台湾でも日系ドラッグストアの市場参入が話題となり、昨年には日本のドラッグストア業界にて長きに渡り首位に君臨していたマツモトキヨシが 10 月の 1 号店に続き、2 号店も矢継ぎ早にオープンさせ台湾市場の話題となりました。そこで今回は店舗販売以外にもネット販売が加わった、所謂戦国時代の様相を呈してきた台湾のドラッグストア/コスメ業界についてレポートしてみたいと思います。

＜マーケット概要＞

台湾經濟部統計處の統計結果によりますと台湾も高齢化社会に突入し、薬品及び医療器材に対する需要が年々拡大しております。かつ台湾人女性の膨大な潜在消費力によって支えられた 2017 年のドラッグ&コスメ商品の売上高は 2 千億台湾ドルを突破し、年成長率も約 3%です。因みに台北屈指の観光エリア「西門町」界隈には業界トップ 4 のドラッグストアが揃っていることで有名です。中でもエリア内の成都路には 200mあるかないかの距離に業界トップ 4 のドラッグストアが全て揃って店舗を構えていることでも有名です。また業界二大巨頭のひとつである康是美（コスメド）では 2018 年度の売上は台湾ドル 110 億に達し、年 5%の成長率を維持。その内、化粧品 of 年成長率は 2~3%です。2018 年の 9 月には化粧品、コスメと薬品の割合を 7 対 3 にし、SHNIE ビューティーコスメをコンセプトに新業態店舗をオープンさせています。

【台湾主要ドラッグストア店舗数】

国籍	店舗名	台湾側パートナー	店舗数	設立年
香港	屈臣氏	(屈臣氏グループ)	550	1987
台湾	康是美	統一グループ	400	1995
台湾	日薬本舗	※	54	2011
日本	Tomod's	三商グループ	44	2012
台湾	86 小舗	※	15	2006
日本	マツモトキヨシ	台隆工業	2	2018

※86 小舗 台湾最大の E コマースショップ

FB 登録者：138 万人 LINE 登録者：1,440 万人

【日系各社それぞれの戦略】

会社名	取材対応者	各社コメント
Tomod's 台湾	足立亮二 総経理	・働く女性を意識した商品提案 ・東南アジア市場も視野に入れたビジネス展開
マツモトキヨシ台湾	林保範 総経理	・商品の多様化 ・会員ポイントの台日共通化 ・フリー化粧品サービスの提供
日薬本舗	謝德璋 会長	・同社独占販売のアイテムが最多(➡医療保険品売上が全体の 40%以上を占める) ・日本のピーノス社と提携した IT、ビックデータ戦略 ・一部店舗に日本の昭和レトロ調博物館を設置



＜化粧品の生産基地、台湾＞

台湾でも日本ブランド商品は相変わらずの人気ですが、台湾の女性達は美容や化粧品に対する意識、関心度が高いので独自のオリジナルブランドもかなり沢山あります。因みに TAITRA (中華民国対外貿易発展協会) によると、2017 年の台湾の化粧品輸出額は前年比 13・2%増の 7・3 億 US ドルで過去最高を記録しております。主要な輸出先は中国、香港、アメリカ、アセアン諸国等です。この様に世界の生産基地として OEM・ODM 工場である台湾は大手化粧品メーカーの製造を担っており、美容コスメ分野でも実力を蓄えてきました。また近年はデザイナーとのコラボにより、オリジナルコスメの製造に力を注いでいます。特に世界 17%のシェアを占めているフェイスパックは台湾に大きなビジネスチャンスをもたらしています。台南では工業研究院の掛け声のもと美容化粧品産業に於ける川上、川中、川下業者が集まり「台湾麗谷創新産業連盟」を結成。フランスの企業と MOU を提携し、MIT (Made in Taiwan) 商品を世界に売り出す試みをスタートさせております。TAITRA 台湾貿易センターのプレジデント兼 CEO の葉明水 (Walter, M. S. Yeh) 氏も今後の展望については「お土産需要から台湾製商品に火がつき、なかでもシートマスクが好調だが、今やアジアのコスメ市場は伸び盛りだから、台湾の化粧品産業のグローバル化をもっと押し進めていきたい。美容と医療を組み合わせた台湾らしい特徴をつくり、国際的に重要な立場になれるように発展させていく」と力強く語っておられます。